

地域の会 質問・意見書

日付：2026年5月15日

氏名： 飯田 耕平 （原発問題柏崎刈羽住民連絡会）

主に資源エネルギー庁 に対する 質問

柏崎刈羽原発（KK）6号機が、4月16日から営業運転を行っています。現在まで1ヶ月が経過しました。イラン情勢等も絡み原油価格が高騰し、日常生活にも大きな影響が出てきています。こうした情勢の中でKK6号機の再稼働による発電は、東京電力にとって経営上大きな収益改善があることと思います。

質問1 東京電力管内における総発電量の内訳を、4月16日以前の1ヶ月と16日以降の1ヶ月の電力構成毎にデータを教えてください。

原子力発電、石炭火力発電、LNG発電、
再生可能エネルギー発電における太陽光発電、風力発電、水力発電、
その他バイオマス発電等

質問2 再生可能エネルギーの出力抑制が行われた日時、時間帯、及び出力抑制電力量と再生可能エネルギー毎のデータを教えてください。

質問3 KK6号機の電力は、ベースロード電力として活用されているのならば、日中、夜間の主な使用先はどこになりますか。

かつて、KKの原発の夜間電力は揚水発電所の揚水に活用されていましたが、再稼働後はどうなっていますか。

質問4 出力抑制の仕組みについて教えてください。発電会社と配送会社は分離されました。しかし、従来の発電会社のグループ会社として送電網を地域独占しているのが現状です。出力抑制を行う際の公平性の確保が保たれているとは思えません。発送電会社の判断が優先され、その結果再エネ特に太陽光発電会社の経営が悪化しています。

出力制御を導入する際のルールについて教えてください。また、出力制御は東電管内ではどこで、誰が行っているのですか。その際、公権力（国又は自治体）はどのように関与しているのです。公平性は本当に保たれているのか、疑問です。

質問5 太陽光エネルギーや再エネを、安定して、継続的に蓄え、必要なときに安心・安全に継続的に使えるシステムを構築することは、近々の課題です。蓄電池の開発には時間とお金がかかると言われていますが、これまでに原発の安全性向上に振り向けられた膨大な資金や核燃サイクルにつき込んだ金額に比べたら大きな金額ではないのではと疑問を持っています。これまでに蓄電池の開発、設置にはどのくらいのお金が投入されましたか、教えてください。

意見1 原油価格高騰による国家・民間備蓄の放出が行われています。今こそ、再エネを最大限活用し、電力会社の火力発電用の燃料を国家備蓄、民間備蓄に廻した方がよいのではないですか。極めて幼稚な考えですが。

温室効果ガスの削減は、待ったなしです。再生可能エネルギーの最大限の活用こそ、第7次エネルギー基本計画を早期に実現する近道ではないですか。

危険な「核のゴミ」をこれ以上増やさないことが求められています。